

日本学術会議

第22期3年目(平成25年10月～平成26年9月)の 活動に関する評価に係る報告



年次報告等検討分科会委員長
井野瀬久美恵
平成27年4月9日

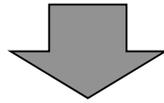
外部評価委員からの意見聴取

昨年[平成26年]7月以降、内閣府特命担当大臣(科学技術政策)の下で開催されてきた「日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議」での10年見直しとも相まって、学術会議において主体的な見直しが行われるであろうなかで、この評価結果がその一助となり、我が国の科学者コミュニティの代表機関として、日本学術会議がさらなる発展に資することを期待する。

全体的評価

- * 学術会議に求められる役割と責任
- * 国内外の科学者コミュニティにおける強いリーダーシップの発揮

震災以降、科学や科学者に対する信頼が揺らぐなかで、科学者コミュニティが全体として持ちうる社会との接点としての学術会議の重要性



提言等の意志の発出は、この求めに応えているか？学術会議は自らのミッションをきちんと果たしているか？

今後の課題

(1)「組織の記憶」と「新世代参入」の両立

- * 経験会員と新会員とのバランス
- ⇒「組織の記憶」を保持するために、あらゆる工夫によって経験会員と新会員の対話の機会を

(2) 提言等のあり方、(3) 活動方針

- * きちんと社会に届いているか——政府や社会、国民へのメッセージ性・助言としての役割・タイミング
- * 学術全体を俯瞰的に見る視点の重要性
- * 分野横断的な統合＋過去の蓄積の総合化(integrate)
- * 学術会議が取り上げるべき課題とは何か？

学術全体のリーダーシップを担うために

- * Future Earthの恒久事務局として選出
→ 地域や国を超えた共通の問題解決のために日本は何をするのか/何ができるのか。
- * 科学研究の健全性に関わる問題への対応・議論
→ 学術会議でしかできない議論とは何か？
- * 科学と社会との関係の見直し
⇒ 例 第一部が直接統括する分野別委員会合同分科会
「科学と社会のあり方を再構築する分科会」
- * 政策策定に役立つ提言の出し方・助言の枠組み
⇒ その一方で、長期の展望に立った学術の未来を考
える役割もまた、学術会議の大きなミッション

評価への今後の対応

- * 会長メッセージによる外部評価書のフォローアップ
- * 提言等の意思の発出に関する改善
 - ★ チェックシートによる作成者の最終確認
 - ★ 査読プロセスの強化
- * 議論する場の構築
 - ★ 課題別委員会・幹事会附置委員会
 - ★ 日本学術会議総会という場